

あっという間に過ぎた三年間を振り返ると一言では言い表すことのできない感動がたくさんありました。三年前の四月五日、良く晴れた春の日の午後、私たち七十三期生は豊中市立第二中学校に入学しました。不安と期待が入り混じる中自分の心臓の音を聞きながら新入生代表の挨拶をしたことを昨日のこのように、鮮明に覚えています。

初めての校外学習の行き先はみんながよく知っている万博公園。最初は会話がぎこちなかったけれど、一緒に過ごすうちに新しくできた友達の良いところを発見し、仲を深めることができました。学年レクも盛り上がり、七十三期生としての一体感が生まれました。

琵琶湖での校外学習。休校期間が明け、二年生の校外学習が十一月に行われました。本来なら一泊二日の宿泊訓練であったはずが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でなくなり、校外学習になったと聞いたときはとても悔しかったです。けれど実際に行ってみると、カヌー体験や博物館見学、そして友達との関わりを通して、人と繋がるということの大切さ、貴重さを学びいつもと違う時間を楽しむことができました。

そして、最高学年の三年生。五月に予定されていた長野県白馬村への修学旅行が二度延期され、私たちは行けるのか行けないのかもどかしい気持ちでした。結局、修学旅行には行けませんでした。実力テスト直後の姫路セントラルパークでの校外学習は予想よりはるかに充実したものでした。みんなの笑顔があふれ、最高の思い出になりました。

中学校生活最後の合唱発表会。どのクラスも一年生、二年生のときとは違う雰囲気練習を始めました。一クラスずつの選択曲も各クラスで決め、他のクラスとの競争心を感じました。一生懸命練習しているけれど歌が上手く仕上がらないときもたくさんあり、その度に音楽科の先生のアドバイスを受けながら改善していきました。そして迎えた本番。オンラインで家族が合唱を聴いている中、心を合わせ、練習の成果を発揮することができました。クラスの合唱が終わったときの感動は一生忘れないと思います。

中学生になり、僕が一番印象に残っているのは部活動です。入学後の先輩方が考えてくださったクラブ紹介を皆でワクワクしながら見ていました。どの部活もとても素晴らしく、先輩方が輝いて見え、カッコよかったのを覚えています。

入部したての頃は、まだ話したことのない人もいる中で、同じ目標に向かって頑張れるか不安になりました。しかし、日に日にその目標に向かい、同じ練習を重ねていくことで、仲間とも話すようになっていき、少しずつ人柄を知るようになり、意外な一面なども見ることができました。

初めての試合では、思うように力が出せず、悔しい結果を残すばかりでした。そのことを話し合

っても、なかなか変わることができませんでした。後輩ができたことで、皆の意識が変わってきました。三年生になり、話し合いや、どうしたら後輩に伝わりやすいかなど、少しずつ変わりました。同時に、先輩方はこんなにもたいへんだったのかと知りました。

部活が残り少なくなると、とても寂しくなり、試合に向けて頑張ろうと思いました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、試合が無くなってしまった部活は少なくありませんでした。そんなとき、悔しいけど支え、励ましてくださった先生方、先輩方、仲間には、感謝しかありません。楽しいことも辛いことも、今となっては良い思い出で、中学校生活の中でも、とても大切な時間でした。

体育大会では、競技の勝ち負けに限らず、応援旗の作成、クラスの応援など、どのクラスも全力で楽しみました。

応援旗作成では、一年生のときは初めてで、他のクラスがどんな旗なのか知りたくてドキドキしていました。二・三年生になると一年生に比べて一段とレベルが上がり、他のクラスにアイデアを盗まれないように応援旗をかくす人がいたり、自分のクラスの旗よりもほかのクラスの旗に感心したり、少し絵具で遊んだり楽しくて面白いことがたくさんありました。

応援では、普段話していない子に声をかけるのはもちろん、二年生三年生とコロナ渦で開催した時も我慢しきれずマスクを外してしまったり、ハチマキやタオルを振り回したりしていました。また、けがをしているけど必死にクラスメイトの応援をしたり、各委員会が割り当てられた仕事を一生懸命に『やるときはやる』という気持ちで頑張ることができました。

特に心に残るのは三年生の「団体行動」です。正直最初のころは反対の声もありました。しかし、私たち体育委員の頑張りに皆が応えてくれました。練習を重ねる度に覚えることや難しい事も増えてきて緊張感も出てきました。そして全部の行動の指示が終わった時には、達成感もありましたが、これを全体ですると思うと同時に焦りや不安も感じました。全体練習では各クラスの体育委員や基準の人たちが大きい声を出して列を整えたり、スピードを合わせたり、大変な事もたくさんありましたが全員がそろったときには、ここまで頑張ってよかったなと思えました。

みんなで作り上げた重みのある体育大会にすることができました。応援は相手を信じているからこそ心の底から励まし合えます。体育大会では一人一人の思いが伝わり深い絆を築き上げることができました。

生徒会活動では、僕は前期会長になりました。普段味わえないことも体験することができました。今までの自分なら、見ているだけで何もできませんでした。しかし、生徒会に入ってから、二中を良くしようと積極的に動くことができました。そして、普段なら見られなかった二中の良さを、別

の視点から見ることができたので、とても良い経験になったと思います。

二年生の後期になると部活の部長や生徒会などみんなそれぞれ新しいことに挑戦していました。私も皆に感化され議員になりました。最初は何をするにしても緊張して怖かったです。しかし、苦手だったみんなの前で話すことも、周りに気を配り行動することもできるようになりました。議員としてだけではなく人としても何か大事なものを見つけられた気がしました。これらの貴重な経験から自分自身大きく成長できたと感じます。また、勇気を出して挑戦したことは、これからの自信にもつながると思います。三年生になり受験を迎えて互いを認め、高め合うことのできる友達がいかにか大事かということに改めて気付かされました。遊んだり話したりすること以上のものがこの三年間でできたと思います。これからは自分一人ではできないことが多くの人々の支えにより出来ていることに感謝し、何事にも全力で取り組んでいきたいです。そして、人を思いやる気持ちを忘れず、自分を大切に、それぞれの道を進んでいきます。

一番身近な場所で支えてくださった先生方、今まで本当にありがとうございました。先生方は様々な行事が予定されていた中で、思いがけないことが沢山ありましたが、何よりも私たちの安全を第一に考えてくださいました。行事が無く、なかなか勉強のやる気がでなかった私たちにスタートの合図を出してくださったので勉強に向かう姿勢に変わることができました。先生方に教わった、何事もあきらめないこと、感謝の気持ちを持つことを忘れずにこれからも頑張ります。

最後になりましたが、お父さん、お母さん、今まで育ててくれてありがとうございました。どんな時でも私たちを励まし応援してくれました。それらはすべて私たちの力になり、ここまで成長することができました。これからも、歩んでいく道を暖かく見守ってください。

二〇二二年三月十五日

卒業生代表